

重症児の運動器疾患

2015年9月4日
鳥取大学医学部脳神経小児科
玉崎章子

今日のお話

- 骨粗鬆症
- 関節変形・拘縮
- 側弯症
- 筋緊張亢進と治療法
 - 内服治療
 - ボツリヌス療法
 - 整形外科的手術
 - 選択的後根切除術
 - バクロフェン髄腔内投与療法



骨粗鬆症

重症心身障害児/者の骨粗鬆症の特徴

- 原因:
 - 荷重がかからない、抗けいれん薬内服、栄養不良、日光浴の機会が少ない
- 頻度は年間4.0-9.7%と報告あり。
- 部位は大腿骨遠位端に多い。

関節変形・拘縮

頭部～上腕の拘縮の注意点

- 末端部よりも中枢部の拘縮変形の予防が生命的に重要。
肩～上腕の可動域を保つことが、呼吸機能や摂食機能の悪化を防ぐために重要。
- 上腕が後ろに引かれた緊張や拘縮は頭部の後屈を招く。
→誤嚥や咽頭・喉頭・気管の狭窄の原因となる
- 努力呼吸が肩周辺の筋緊張亢進を促進し、拘縮をきたす要因となる。
→呼吸状態の改善が重要。

骨盤～下肢の拘縮の注意点

- ▶ 大腿内転筋の筋緊張が高い場合、股関節脱臼を起こしやすい。
左右差があると側弯、体幹変形の発生、悪化要因となる。
→安定した座位保持が困難となる。
- ▶ 骨盤周囲の拘縮は運動機能の低下、
介護負担の増悪原因となる。

側弯症

側弯症のポイント

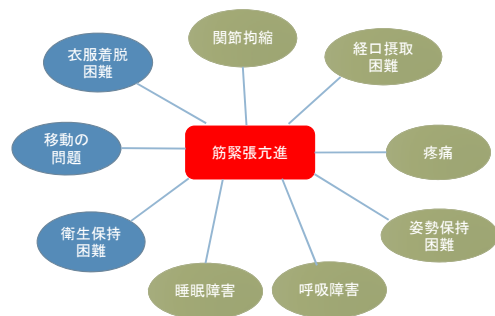
- ▶ 7～12歳頃から始まる。(男性は女性より遅い)
- ▶ 最初はsingle curve(long C)で、年長になるにしたがって一部double curve(S)となる。
- ▶ C字型は痙性がかなり強く左右差の大きいタイプがなりやすい。

側弯症のポイント

- ▶ 15歳以前にCobb角が 40° 以上だった場合は、最終角度が 60° 以上となる可能性が高い。
(=呼吸機能障害をきたす症例となる可能性が高い)
- ▶ 左に凸の側弯や著しいS字型の側弯は胃食道逆流症をきたしやすい。
- ▶ 腰椎部での強い側弯、前弯は小腸、大腸の通過障害をきたしやすい。

筋緊張亢進

筋緊張亢進と付随する問題点



筋緊張亢進に対する対応

- 原因を探る。
 - 楽しいこと？ 苦しいこと？
- 原因の治療
- リラックスできる姿勢、安定した呼吸ができる姿勢を整える。
- 安心できる環境を整える。
- 薬物治療
- ボツリヌス毒素
- 外科的治療